

編集後記

本年の松本市での日本泌尿器科学会総会で気がついたことがいくつかある。その一つは、ぎっしり数字や文字のつまったスライドが多いことである。オペラグラスを用いてもなお判読困難なものがあつた。枚数の制限から、こうなるのであろうが、あくまでも見せるスライドであるという立場で作成してもらいたいものである。また用語の誤読がちょいちょいあつた。「増悪」はその1例であるが、これについては筆者が日本医事新報に書いた記事の一節をここに引用したい。

先日、学生に「増悪」をどう読むかきいてみた。「ゾウアク」と答えた者、「ゾウオ」と答えた者、ほぼ相なかつた。なるほど「憎悪」に似ている。あるいは似ているからこそ、このような語が生まれたのかも知れない。学会でも「ゾウオ」と発音している先生がいた。罪なコトバである。私はこのコトバを憎悪したい。悪化という語でことは足りるではないか。ついでにいうと、「増悪」は広辞苑にはのっていない。(T.T.)

編集委員

| | | | |
|---------|---------------|-------------|-------|
| 石 神 襄 次 | 前 川 正 信 | 宮 崎 重 | 新 谷 浩 |
| 園 田 孝 夫 | 友 吉 唯 夫 (副主幹) | 吉 田 修 (主 幹) | |

購読要項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料 5,000 円 (送料とも) 前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名 (フリガナ)、住所 (雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投稿内規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けます。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, pH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
 - A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
 - B 単行本の場合 著者氏名: 書名. 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受け付けはいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

| | | |
|---------------------|-----------------|------------------------|
| 泌尿器科紀要 第23巻 第2号 | 1977年3月25日 印刷 | 1977年3月31日 発行 |
| 創刊 稲田 務 | 顧問 加藤 篤 二 | 定価 500 円 (送料別) |
| 発行 吉 田 修 | 発行所 泌尿器科紀要編集部 | |
| 〒606 京都市左京区聖護院川原町54 | 京都大学医学部泌尿器科学教室内 | 電話 (075) 751-3327 (直通) |
| | 印刷所 山代印刷株式会社 | 京都市上京区寺之内通小川西入 |
